

- ・ 自習項目に応じた学習方法を選択することができた。
- ・ 実際にSGDを行ってみた なるべく直接的目的体験をさせるようにした(配合変化等を実際に起こしてみるなど)
- ・ 実際の業務を学習方略にあわせて実習スケジュールを作成した。
- ・ 実際の業務を学習方略にあわせて実習スケジュールを作成し改良を重ね活用している。
- ・ 実習、SGD、見学、講義、テスト等を考えながら実習を進ませている。
- ・ 実習スケジュールの学習方法は、内容1コマ毎に「学習方法の選択」から選んでいる
- ・ 実習スケジュールを考える際、どこで、何をを用いて、誰と、どんな方法で、時間など、具体的にいった。
- ・ 実習のもって行き方など
- ・ 実習の中にSGDを取り入れた
- ・ 実習を受けた時の人員と実際に始まった時の人員(-1)が違った為、これについては余り活用しなかった。
- ・ 実習計画時にいろいろな方略を取り入れて実習できた
- ・ 実習生のスケジュールを作成したり、考えたりするときに、方略の考え方を利用すると作成しやすかった。
- ・ 実習生の教育・指導方法を多様化させた。(実技、見学、DVD 見学、SGD)
- ・ 実習目標を達成するための手順作成に役立った。
- ・ 実体験が一番印象に残りやすいので、OP 見学や外来見学などを取り入れた。
- ・ 実務の内容を実習内容に反映させることで、学生に実習内容に対する興味を持たせることができる
- ・ 実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・ 実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 種々の学習方法を取り入れることで反復学習させるよう取り組んだ
- ・ 受動的な方法に偏ることなく、能動的な方法を探ることでより積極的に実務に近い学習が得られたと思う。
- ・ 書き出す事で、新たな学習方法・アプローチを再確認できた。
- ・ 人数に応じ、内容に応じ、時間に応じたプランニングに活用した
- ・ 人的資源を選択する際などに活用できた。
- ・ 多方向より学生にアプローチできる。
- ・ 体験した後で解説を加えることで印象が強かった
- ・ 体験型の実習に留意した。
- ・ 担当分担する時に
- ・ 段階的にステップアップを図ること
- ・ 知識・技能・態度の習得を見分ける手段となった
- ・ 長期実習期間の人的準備
- ・ 当院では何が行えるかを考えて作成しました。
- ・ 当院の実習スケジュールに具体的に組み入れた
- ・ 当院独自にアレンジできた
- ・ 能動的な学習方法を考えることができた
- ・ 病院への周知、資源の活用を考える時に、整理して考えることが出来た
- ・ 部員への方略の周知、円滑な運用に活用
- ・ 服薬指導を行う前の段階でロールプレイを活用した
- ・ 服薬指導を行う前の段階でロールプレイを活用した
- ・ 服薬指導を行う前の段階でロールプレイを活用した
- ・ 物的資源の有用性を評価し、学習方略の改訂を行った。
- ・ 平均的実習が得られる

- ・ 方略が偏らないように配慮して実習を組むようにした。
- ・ 方略の設定方法
- ・ 方略を作成した
- ・ 目標に沿って、学習方略を検討した時に活用した。
- ・ 問題集の作成・利用
- ・ 薬学教育モデル・コアカリキュラムにない実習の学習方略作成で活用した
- ・ 薬学生の実習カリキュラムを作成する際に活用できた
- ・ 理解のさせ方を、これは深い理解、浅い理解、これは自動化までなど項目によって、期待するレベルを考えた。

【記述 07】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(4) 教育評価について

③ 教育評価の方法の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 「評価しようとする行動と評価方法」など資料に基づいてカリキュラム作成スタッフと考え方を共有した。
- ・ P.N.P で評価したこと。
- ・ WS 後、まだ実習担当していません
- ・ インターネット上の実習日誌であったため、すでに評価方法がきまっていた。
- ・ がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・ コアカリキュラムでの評価の重要性が理解できた
- ・ これまでの評価は、場当たりの面があったが、正式に評価方法を知ることで、システマティックな評価ができるようになった。
- ・ これを理解してもらうにはどのようなことに取り組んでもらえばいいのか逆に考えることができた。
- ・ シュミレーションテスト、チェックリスト、評定尺度、複数の評価者、レポートなど。
- ・ チェックリストを作成し、簡便かつ客観的に評価できるようにした。
- ・ できるだけ客観的に妥当性を持って評価できる
- ・ どの様な判断基準、どの様に評価して行くか、経験したことで、判断の役に立った。
- ・ ひとりの指導薬剤師で担当学生すべてを把握することは困難であるので、多角的な評価ができた
- ・ フィードバックをすることにより学生のやる気をおこしていくこと。
- ・ よいところを伸ばしていく
- ・ より客観的な評価が可能となった。フィードバックの重要性について理解できた。
- ・ ワークショップで頂いた、評価法の資料を参考にさせてもらった
- ・ 以前より評価視点が分かりやすくなり、評価しやすくなった。
- ・ 院内実習テキストの作成
- ・ 演習における評価方法の選択
- ・ 何をを持って評価するかが具体的にになった。
- ・ 各指導者間での評価のばらつきを少なくすることができた。
- ・ 各方略や SBOs の評価を客観的に行うことで、GIO の評価がほぼ自然に導き出せた。
- ・ 各目標に対して、評価方法を選択する参考にはなった。

- ・ 学習効果を上げるために形成的評価を効果的におこなう必要性を知ることができた。
- ・ 学習者がどの程度理解すればいいのか尺度が理解できる。
- ・ 学生さんへの評価を行う上で、予想到達度を加味して評価することができた。
- ・ 学生と評価者の評価の違いを実感することが出来た。どのような教材で指導すればよいかの参考になる
- ・ 学生の評価をする基準
- ・ 学生を評価するための基準がわかった
- ・ 学生を評価する際は参考になりました。
- ・ 感覚的な評価ではない評価方法を学習でき、実習生だけではなく、職場においても活用できた。
- ・ 客観性を高める手段としてはチェックリスト、評定尺度があり信頼性を高める手段としては複数の評価者が共通の評価基準を用いる
- ・ 客観的な評価がしづらく、各施設間でのばらつきが懸念される。
- ・ 客観的な評価をするための方法を学んだ。
- ・ 客観的に評価方法を作成することにより、均一になるべく評価をする必要があることを認識できた。
- ・ 教育効果を高めるには形成的評価を適切に取り入れることが重要であることが理解できた。
- ・ 教育評価の作成手順
- ・ 教育評価を行うために、必要な情報を測定、価値判断し、意思決定を行うことが理解できた。
- ・ 教育評価法は現場でそのまま当てはまる訳ではなく、どちらかといえば困難だった。
- ・ 具体的な評価方法を教えてほしいです。他施設とばらつくのでは？と思っています。
- ・ 具体的に評価することが可能となり、実際の結果も意義をもつものとなった。
- ・ 形成的と総括的の違いが理解できた
- ・ 形成的評価がもっとも重要であることが理解できたが、実際に指導者の形成的評価がどう効果を示したかについては、まだ十分検証できていない。
- ・ 形成的評価という概念を学ぶことができた。
- ・ 形成的評価という考え方を最初は理解できなかったが、WSで少し理解できた。
- ・ 形成的評価という考え方を持つことが実習生の成長を見るために役立った。
- ・ 形成的評価という方法の概念を初めて知った。
- ・ 形成的評価と総括的評価の概念を、頭の中で整理して、実習生を評価する準備とした
- ・ 形成的評価による教育の本質について学ぶことができ、実習時にもそれを念頭において行った。
- ・ 形成的評価に重点を置き実習に望みました。
- ・ 形成的評価の意義
- ・ 形成的評価の意義(フィードバックの有用性や方法など)
- ・ 形成的評価の意義が理解できた
- ・ 形成的評価の重要性
- ・ 形成的評価の重要性が理解できた。
- ・ 形成的評価の重要性を理解し繰り返しの指導が必要であるという概念を知りえたこと
- ・ 形成的評価の難しさが理解できた。
- ・ 形成的評価を行うことで、教育不足の点が確認できた。
- ・ 形成的評価を行うことにより、理解度が増す
- ・ 形成的評価を行うことの意義、重要性が理解できた。
- ・ 形成的評価を心がけている
- ・ 考え方としては妥当だと思うが、実用的ではなかった
- ・ 最終評価だけでは評価ではないということを実習が始まる前に知ることができた。
- ・ 至らない部分を見極めるうえで、役に立ちましたが、厳しくなる傾向にあるため注意を要した。
- ・ 実習における毎日の評価手法に役立った。
- ・ 実習の評価の考え方、方法、学生への接し方
- ・ 実習を評価することを理解できたし、その方法に対して具体的に知識を得ることができた
- ・ 実習内容が考えていたことから、大きく逸れた為、余り役に立ったとは言えない。
- ・ 実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・ 実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 実務実習指導・管理システムを使用し実習生の評価を行う際に有用であった。
- ・ 実務実習指導・管理システムを使用し実習生の評価を行う際に有用であった。
- ・ 実務実習指導・管理システムを使用し実習生の評価を行う際に有用であった。
- ・ 実務実習生の形成的評価、総括的評価の方法がある程度分かった
- ・ 主観性と客観性について
- ・ 常に5w1Hを念頭に置きながら評価していくことができた
- ・ 数値化することでどの薬剤師でも評価がぶれないようになった
- ・ 総括的評価、形成的評価を理解して、評価ができた
- ・ 総括的評価と形成的評価があり、各行動目標の評価は学習形成過程の改善を目的に形成的評価が望ましい事
- ・ 総括的評価と形成的評価という2通りの評価方法があることを学び、他の指導者にも伝えた。
- ・ 測定しようとする行動と評価方法の選択が理解できた。
- ・ 測定しようとする行動と評価方法の対比について。
- ・ 測定しようとする行動により、評価方法を使い分けることができた。
- ・ 多くの学生を同じ基準で評価できる。
- ・ 大学ごとに評価の内容が統一されていないので、評価に苦労した。
- ・ 大学と指導者側の共通の言葉として理解し、大学からの要望には応えられた
- ・ 知識・技能・態度に応じた評価方法を利用できた。知識は確認テストや口頭で。技能は実技、服薬指導は観察記録等。
- ・ 地域グループ実習病院であり各病院の評価の目合わせが可能になった
- ・ 点数評価だけでなく、声かけなども評価のひとつだということ。
- ・ 到達度の設定で学生と指導薬剤師のギャップを大学担当教官に伝達できた
- ・ 到達目標に応じた評価方法を採用する点
- ・ 標準化し、整理できた。
- ・ 評価する領域により有効な評価方法を取り入れることができる
- ・ 評価について学習したのは始めてであったため、評価の視点が全く変わって形成的評価を行うことが出来るようになった
- ・ 評価に関しては、あまり資料が公開されておらず、現場で工夫した。

- ・ 評価のレベルを理解することで、方略等の再検討をした
- ・ 評価の基準が少し理解できた。
- ・ 評価の手順を明確にすることで評価がしやすくなった。
- ・ 評価の手段を明確にする重要性が理解できた
- ・ 評価の重要性を認識した
- ・ 評価の難しさは相変わらずだが、曖昧な評価をしないようにするのに役立った。
- ・ 評価の方法の考え方
- ・ 評価の方法を作成することで、誰が評価してもよくわかる
- ・ 評価は最終的なものばかりでなく、その都度評価してあげる事も大切な点
- ・ 評価を踏まえた上で実習内容を考えることに役立った。
- ・ 評価基準、評価方法について理解することが出来たので、実習生を評価するときに役立った。
- ・ 評価基準を明快にできた。
- ・ 評価方法、評価基準が参考になった。
- ・ 評価方法が今までと異なり、学生中心で考えることが出来るようになった。
- ・ 評価方法の種類
- ・ 評価方法の統一
- ・ 評価方法を決定する際に役に立った。
- ・ 評価方法を作成し、今回足らなかったことできなかったことを次に入れられるように指導の仕方を考えられた
- ・ 評価方法全般
- ・ 評価法の種類、またそれぞれの特徴を知ることができた
- ・ 評価法は理解できるが、薬剤師業務は多岐にわたり、もっともって経験して欲しいことはあるので、評価しにくい。
- ・ 複数の評価方法
- ・ 目標=評価と考え、当院オリジナル評価マニュアル作成した。
- ・ 薬学生の実習カリキュラムを作成する際に役立った
- ・ 理解はできているのですが、本当にそれで評価つけていいのでしょうか？

【記述 08】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(4) 教育評価について

④ 教育評価の方法の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。

活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ (講義は有用であったが実際に行う点数化とは結びつかない)
- ・ 「知識」の項目では、科員に解答ポイントと合格ラインを説明する事により、薬局内で偏りのない評価ができた。
- ・ SBO の評価に活用した
- ・ WS 後、まだ実習担当していません
- ・ WS 受講者間で認識の統一化が図れた
- ・ がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・ それぞれの SBOs についての評価方法を事前に組むようにした。
- ・ それをスタッフに理解してもらうための説明をすることができた。
- ・ チェックリスト レポートで内容を確認し評価を行った
- ・ とても重要なことだったので、資料を基に受け入れ前に部内で説明会を行った。

- ・ フィードバックをおこなった。
- ・ フィードバックをすることにより学生のやる気をおこしていくこと。
- ・ よい点を挙げ、学生のモチベーションをあげる。その後改善点に言及する。
- ・ ワークショップで頂いた、評価法の資料を参考にさせてもらった
- ・ 一般的な知識に関してはミニテストを行ったり、全体の流れを理解できているかどうかは口頭で答えてもらったりした。
- ・ 院内実習テキストの作成
- ・ 課題(SBOs)に対する実習生自身の評価と教育者の評価を比較した。
- ・ 各学生に合わせた実習の設定、どう評価するべきで基準をどうするか理解できた
- ・ 各内容での、評価の手段を設定した。
- ・ 学習効果を上げるために形成的評価を効果的におこなうように努めた。
- ・ 学習者へのフィードバックはできるだけその場で行うように心がけました。
- ・ 学生さんのへの評価を行う上で、予想到達度を加味して評価することができた。
- ・ 学生のプロファイルとして利用できている。大学への報告にも利用したいが受け手や送付方法がない。
- ・ 学生のモチベーション向上
- ・ 学生のレポート提出、実践したことに対してフィードバックを行い、再提出、再実践させることで、学生の能力を引き上げた。
- ・ 学生の意見を積極的に聞きながら学習を進めていくことが出来た
- ・ 学生の実務実習で評価する際、時期をずらして3回評価し、問題点をフィードバックし、改善していく。
- ・ 学生の評価
- ・ 学生の評価方法
- ・ 学生を評価する時。
- ・ 学生評価を実際に行う際 WS で学んだことを考慮した
- ・ 観察記録という方法があることを学んで、学習者の行動をよく観察し記録するようになった
- ・ 観察記録という方法があることを学んで、学習者の行動をよく観察し記録するようになった。
- ・ 客観的評価に近づけた。
- ・ 客観的評価を行うために、演習問題を作成した
- ・ 教育評価のプランニングは他の薬剤師が行ったため、実際のプランニングは行っていません
- ・ 教育評価の作成手順
- ・ 具体的な評価を行いにくい実習内容に関しては確認テストを行うなど事前に評価基準を決められるよう設定した。
- ・ 形成的評価
- ・ 形成的評価が上手くできた
- ・ 形成的評価することで、学生とコミュニケーションをはかり、相互の理解が深まった。
- ・ 形成的評価の考えをもって、学生のレベルに合わせた実習教育ができたと思う。
- ・ 形成的評価を活用した。
- ・ 形成的評価を多く行う
- ・ 形成的評価を多用するようになった。
- ・ 個々の学生に応じて、形成的評価を行うことにつながった。
- ・ 個人的感情に偏らない評価につながると考える

- ・ 個別の到達目標を見据えて評価の段階を考えるようになった。
- ・ 口頭での確認やプレゼンテーションを通して評価する方法を取り入れた。同僚評価も多く取り入れた。
- ・ 口頭確認が多いが、評価しながら行うことができた
- ・ 口頭試験、シミュレーションテスト、レポート、評定尺度、複数の評価者など。
- ・ 作成した学習方略等を見直し、次回の実習のカリキュラムのブラッシュアップに役立てることができた
- ・ 指導の途中で成果を確認しながら実習を遂行していく点
- ・ 視点(ポイント)の見方
- ・ 自施設でのカリキュラム作成時の評価方法の設定にワークショップで得たノウハウを活用した
- ・ 実際の指導において繰り返し指導で学生が成長していることが実感できた
- ・ 実際の評価を行う前に、チェック項目の設定などで活用した
- ・ 実習システム上で評価を行ったので、活用したとはいえない
- ・ 実習スケジュールに合わせて順次行うように、取り組んでいった。
- ・ 実習における毎日の評価に役立った。
- ・ 実習の習得度を確認するため用いているが、それぞれの部署の担当者の意見を重視している
- ・ 実習生には優しく対応し、きびしく指導しない
- ・ 実習中の学生との会話の中で、習得の程度をチェックするような質問を頻繁に行うようにした。
- ・ 実習中の到達度の上昇を確認しながら評価する。
- ・ 実習内容が考えていたことから、大きく逸れた為、余り活用出来たとは言えない。
- ・ 実地試験や観察記録の評価表の作成
- ・ 実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・ 実務実習は技能・態度の評価に注目した。
- ・ 実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 処方監査や病棟での症例検討などで薬や疾患の理解度を確認して不足している点を補うように指導している。
- ・ 上記の評価ができるように、事前資料を作成する段階から考えることができた。(結局、サイクルを回す意識が持てた)
- ・ 総括的评价にとらわれることなく、形式的評価を行うことができた
- ・ 測定しようとする行動と評価方法の対比について。
- ・ 多方向から評価できた
- ・ 大学側から配布された実習書に基づき評価。
- ・ 担当薬剤師各に、評価をお願いし、総合評価を行った。
- ・ 点数評価だけでなく、声かけなども評価のひとつという点。
- ・ 当院では、実務実習指導薬剤師ではなく、東京薬科大学が個別認定した者と大学側の一教授の意向で決められ、指導は担っておりますが、意見を言う事や評価には加わる事はできません。
- ・ 到達目標に応じた評価方法を採用する点
- ・ 特に形成的評価を念頭におき、実習の指導に当たった。
- ・ 日々の評価に、活用できた。
- ・ 被評価者に対するフィードバックの技法を学ぶことができた。
- ・ 標準レベルを判断するのに利用した
- ・ 評価が各自主観的でむずかしい

- ・ 評価のフィードバックを行うことができた
- ・ 評価の時期を工夫できた。
- ・ 評価の重要性は理解できるが、現状では活用できるレベルではないように思っている
- ・ 評価の低い部分や不足部分の指導を追加指導した
- ・ 評価の方法を毎回少しずつ変えて、よりよく評価できる方法を模索している
- ・ 評価ポイントは、実務実習テキストを参考にした。
- ・ 評価を一定の基準で行なうことができるようになる。
- ・ 評価方法は認知領域では想起、解釈、問題解決とし、精神運動領域では学習により行動変化の情報を収集測定
- ・ 評価方法全般
- ・ 病院実務実習記録ソフトに日々の実習の評価を行い活用した。
- ・ 部員への評価の周知、円滑な運用に活用
- ・ 変化を感じることを評価するようになった
- ・ 毎日書く自習日誌のコメントで形成的評価を行い、気づきの機会を与え、次の指標としてもらえるようにした。
- ・ 面接や確認テストのスケジュール作成に活用した。
- ・ 問題を作って理解度を評価、現場での口頭質問
- ・ 薬学教育モデル・コアカリキュラムにない実習の評価表作成で活用した
- ・ 薬学生の実習カリキュラムを作成する際に活用できた
- ・ 予め教育項目ごとに評価法を決め準備しておくことができた

【記述 09】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について  
 (5)カリキュラムプランニングで担当されたユニットについて  
 どのようなユニットを担当されましたか。  
 その他の場合は、具体的にお示し下さい。

- ・ 問題点への対応
- ・ GIO:地域の中の薬剤師として、医療人としての良好なコミュニケーションを取るための基本を習得する
- ・ QC 活動について
- ・ SGD で行うカリキュラムを主に担当
- ・ TDM、試験室
- ・ カリキュラムのプランニングは他の薬剤師が行ったため、実際のプランニングは行っていません
- ・ カリキュラムは、一人で全てを作成。
- ・ カリキュラムプランニングしていない。
- ・ カリキュラムプランニングとしては病院実務実習の領域全てを担当。実際の指導は薬剤部員全員で分担。
- ・ カリキュラムプランニングは他の実務実習指導薬剤師が担当した
- ・ コース名「疾病と薬物療法」、ユニット名「病原微生物と戦う」
- ・ コミュニケーション
- ・ すべてのユニット(実習を行う部署が複数あるため、部内の調整役となってカリキュラムを作成した)
- ・ すべてのユニットを担当しました
- ・ すべての項目についてのコーディネーターを担当
- ・ チーム医療
- ・ チーム医療(実務実習事前学習または病院実務実習)、薬剤管理指導業務(病院実務実習)
- ・ チーム医療、リスクマネージメント、薬剤管理指導業務、注

射剤調剤

- ・ チーム医療、薬剤管理指導業務
- ・ チーム医療も行った。
- ・ はっきり覚えていないが、漢方関連のユニットだった様に思う
- ・ プランニングには携わっていません。
- ・ プランニングには参加していない(人事異動のため)
- ・ リスクマネージメント、薬剤管理指導業務
- ・ ワークショップの概要と感想
- ・ 医薬品管理実習
- ・ 医薬品情報
- ・ 医薬品情報の収集、加工、伝達
- ・ 医薬品情報管理業務
- ・ 医薬品情報業務
- ・ 医療事故防止
- ・ 医療人改革
- ・ 医療倫理と薬剤師(実務実習事前学習)、チーム医療(実務実習事前学習または病院実務実習)、リスクマネージメント(実務実習事前学習または病院実習)、薬剤管理指導業務(病院実務実習)
- ・ 医療倫理と薬剤師、早期体験学習、リスクマネージメント
- ・ 院内製剤
- ・ 院内製剤
- ・ 化学療法委員会の意義の説明とレジメンの内容把握を指導。
- ・ 外来化学療法
- ・ 覚えていない
- ・ 覚えていません
- ・ 覚えていません
- ・ 覚えていません
- ・ 覚えておりません
- ・ 学校薬剤師業務
- ・ 間違えて入力したら消せませんでした。
- ・ 記憶に残っていない
- ・ 具体的には分からない
- ・ 抗がん剤レジメン管理 混合調製
- ・ 抗がん剤調製とレジメン管理
- ・ 混注業務
- ・ 治験
- ・ 治験
- ・ 治験
- ・ 治験、臨床研究
- ・ 治験、臨床試験支援業務
- ・ 治験業務 感染症・副作用報告
- ・ 情報(DI)について
- ・ 信頼関係の確立を求めて
- ・ 新人薬剤師30名を対象にした研修コースにおける「患者とのコミュニケーション」のユニットについて、カリキュラムの立案
- ・ 申し訳ありません。記憶がありません。
- ・ 全ユニット
- ・ 担当したユニットが思い出せない。
- ・ 担当したユニットはなし。
- ・ 担当していない
- ・ 地域で活躍する薬剤師
- ・ 調剤、製剤、抗がん剤調製
- ・ 調剤業務
- ・ 独自のSBOsも含め、全て担当した
- ・ 評価とは・評価作成

- ・ 評価作成
- ・ 病院における医薬品管理
- ・ 病院実習すべて
- ・ 病院実習全体
- ・ 病院実務実習(注射調剤、混注操作)
- ・ 病院実務実習(調剤実務)
- ・ 病院実務実習に関わる自施設のカリキュラムすべてを担当した。
- ・ 病院実務実習ワークブックを使用しているため上記の内容についてはそのまま利用している。当院用に他部門見学(2日間)、手術室見学、剖検見学、CPC参加、フィジカルアセスメント実習、症例検討会参加などを企画した。
- ・ 服薬指導のコミュニケーション
- ・ 方略とは・方略作成作業
- ・ 麻薬管理について
- ・ 模擬患者
- ・ 問題点への対応
- ・ 薬学教育
- ・ 薬学教育の問題点
- ・ 薬学教育の問題点
- ・ 薬学教育の問題点
- ・ 薬学教育の問題点
- ・ 薬剤の在庫管理(発注・納品・在庫管理・供給)
- ・ 薬剤管理指導、医療倫理、薬品管理等
- ・ 薬剤管理指導業務
- ・ 薬品管理
- ・ 薬品管理、緩和医療関連
- ・ 薬品管理・製剤
- ・ 薬-薬連携等
- ・ 薬-薬連携。
- ・ 薬薬連携業務実習:薬局と処方医師間の疑義照会に関する仲介業務、当院と薬局間の情報提供の方法など
- ・ 臨床試験・治験業務

【記述 10】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
- (5)カリキュラムプランニングで担当されたユニットについて
- ③ 今後取り入れるべきコース(領域)があれば、お示しください。

- ・ 【出来るなら】治験、臨床試験支援業務
- ・ SMBG等の患者指導、死生観について
- ・ TDM
- ・ TPNやPPNなど栄養や電解質にかんしての領域
- ・ がん、緩和ケア、臨床研究
- ・ がん領域
- ・ コミュニケーション
- ・ コミュニケーション
- ・ コミュニケーション、接遇領域
- ・ コミュニケーション法と患者対応法
- ・ サイコオンコロジー的分野が必要と思う。
- ・ スピリチュアル・ケア
- ・ チーム医療の充実
- ・ バイタルチェックを行い副作用や薬効を確認出来るような取組が必要になってくると思います。
- ・ フィジカルアセスメント

- ・フィジカルアセスメント
- ・フィジカルアセスメント
- ・フィジカルアセスメント
- ・フィジカルアセスメント
- ・フィジカルアセスメント
- ・フィジカルアセスメントについて独立した領域としてはどうか
- ・プレゼンテーション能力、災害医療における薬剤師の役割
- ・医師・看護師・コメディカルとのコミュニケーション、
- ・医師サポート
- ・医薬品情報
- ・医薬品情報
- ・医療は万能ではないが、理想を求める患者さんとそれに答えようとする医療者の気持ち
- ・医療経済
- ・医療経済学・・・現行制度を再検討する
- ・院内感染対策
- ・化学療法
- ・化学療法、治験
- ・外来化学療法
- ・学校薬剤師コース
- ・患者評価
- ・緩和・化学療法
- ・緩和ケア 有害事象の収集 がん化学療法
- ・緩和ケア 有害事象の収集 がん化学療法
- ・緩和医療
- ・危機管理業務、公衆衛生学
- ・救急医療
- ・救急医療(+災害医療)
- ・現在のところ特にありません
- ・現在も取り入れているが、「治験」。
- ・現状のままで良いと思います。
- ・災害医療。がん治療。予防医学。
- ・災害医療と薬剤師役割。
- ・災害時等の行動倫理(情報途絶状態下での活動訓練・思考訓練)
- ・在宅
- ・在宅医療 バイタルサイン 癌化学療法
- ・持参薬管理
- ・治験
- ・治験
- ・治験
- ・治験
- ・治験、医療安全
- ・治験、他施設の見学・実習
- ・治験・臨床研究、癌化学療法、NST・TPN、院内感染・ICT、緩和医療
- ・治験業務
- ・治験業務
- ・治験業務
- ・自分が履修したのが古いので、今何をやっているのかわからないので、何とも答えられない。
- ・実務実習後のアドバンス教育について
- ・社会常識
- ・巡回診療
- ・職業倫理
- ・製薬企業、工場などの管理薬剤師など、現在の臨床重視の教育ではまったく顧みられていない分野。
- ・専門薬剤師

- ・専門薬剤師に対する知識を得る(癌、感染、精神、NST、DM,ICU など)
- ・専門薬剤師の各領域
- ・専門薬剤師関連
- ・早期体験実習で医療倫理をどのように学ぶかということ
- ・対人としての応接、服装を含めたエチケット、姿勢・態度
- ・地域医療連携
- ・地域連携
- ・地域連携、包括ケアの中での薬剤師業務。救急における薬剤師業務
- ・糖尿病
- ・病院・薬局共通の薬剤師業務
- ・病院実習においては、チーム医療の具体的コース、例えば感染制御(ICT)、NST、緩和ケア、糖尿病、治験
- ・病院実務実習
- ・病院薬局実務実習
- ・病院薬剤師の実務に関するもの
- ・病棟業務 薬業連携
- ・副作用/感染
- ・問診とバイタルサインによる薬剤師トリアージ
- ・薬学教育
- ・薬剤師にとって重要なTDM関連領域
- ・薬剤師によるフィジカルアセスメント
- ・薬剤師の卒後教育への道筋
- ・薬事関連法規の見方・考え方
- ・薬業連携
- ・薬業連携
- ・薬-薬連携
- ・臨床研究
- ・臨床研究の進め方
- ・臨床試験
- ・臨床試験について
- ・臨床知識
- ・疼痛管理

【記述 11】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
- (5)カリキュラムプランニングで担当されたユニットについて
- ④? 今後取り入れるべきユニットがあれば、お示しください。

- ・薬業連携と社会的ニーズ。②医療人としてのコミュニケーションスキル
- ・ICU/CCU における薬剤師の業務 病棟配置薬剤師の業務
- ・TDM や TDX などの血中濃度測定、放射性医薬品の取り扱い、薬局での患者の生活環境のフォロー等
- ・クリニカルパス 治験管理
- ・クリニカルパス 治験管理
- ・クリニカルパス 治験管理 接遇
- ・コミュニケーション
- ・コミュニケーションスキル
- ・コミュニケーションスキル(対スタッフ、对患者)
- ・フィジカルアセスメント
- ・フィジカルアセスメント
- ・フィジカルアセスメント

- ・フィジカルアセスメント、薬剤師に求められるコミュニケーション能力・問題解決能力
  - ・マネジメント管理
  - ・メディカルアセスメント
  - ・レジメン管理
  - ・医師や看護師からバイタルチェックの講義や実習をしてもらい、実際の患者で確認する事
  - ・医事システム(保険診療システム)
  - ・医薬品安全管理(特に最近、医薬品紛失事故や病院職員による盗難事故がおこっています。)
  - ・医薬品情報提供(病院実務実習)
  - ・医療安全
  - ・医療安全
  - ・医療安全について
  - ・医療法の中での薬剤師のあり方
  - ・医療倫理以前の一般常識や接遇(指導者に対する態度)
  - ・化学療法、治験
  - ・外来化学療法
  - ・各診療科の医師カンファレンス、回診の参加
  - ・感染対策について
  - ・緩和ケア
  - ・緩和医療
  - ・緩和医療
  - ・緩和医療 外来がん化学療法
  - ・緩和医療と地域連携
  - ・現在のところ特にありません
  - ・現在も取り入れているが、「治験」。
  - ・現状のままで良いと思います。
  - ・抗がん剤ミキシング、チーム医療の項目の充実
  - ・抗がん剤調製
  - ・災害医療、臨床試験
  - ・災害医療支援分野。がん化学療法分野。ワクチン療法分野。
  - ・在宅における薬剤管理指導業務について。
  - ・持参薬の照会、お薬手帳の活用
  - ・治験
  - ・治験
  - ・治験・臨床試験、特殊部門(ICU、救急など)における薬剤業務
  - ・治験・臨床試験、特殊部門(ICU、救急など)における薬剤業務
  - ・治験業務
  - ・実務実習における教育側と実習先の連携・フィードバックについて
  - ・手術室・ICUでの薬剤管理
  - ・職場でのコミュニケーション
  - ・人間の生と死について。例えば「死の5段階」など人が死を受容していく過程について
  - ・専門薬剤師について、病棟薬剤師について、アセスメント
  - ・専門薬剤師制度とその意義
  - ・窓口業務(外来服薬指導)
  - ・対人援助
  - ・代表的な疾患とよく使用される治療薬についての基礎知識(臨床知識の理解)
  - ・地域連携(緩和医療、がん化学療法等)、薬剤師のフィジカルアセスメント
  - ・調剤・投薬の実際
  - ・調剤過誤・アクシデント発生時の対応
  - ・調剤等薬剤師としての基本領域
  - ・調剤薬局と病院の服薬指導の長所、短所の理解と連携
  - ・適切な情報提供
  - ・病院・薬局実務実習
  - ・病院における医薬品管理
  - ・病棟常駐(当院も含め、行っていない病院も多いので難しいかもしれませんが)
  - ・副作用モニタリング、バイタルサイン
  - ・副作用モニタリングの手法・薬効評価
  - ・副作用診断(早期発見)、検査値の解釈
  - ・僻地診療における薬剤師の意義
  - ・薬剤師外来
  - ・薬剤師教育6年制のメリット・デメリット
  - ・薬剤師免許の職能の広さに係ること(衛生管理者等)や治験等臨床研究
  - ・薬事行政
  - ・薬品管理領域で、予防接種、ワクチンについて
  - ・薬物血中濃度モニタリング
  - ・薬業連携
  - ・薬業連携
  - ・薬業連携
  - ・薬業連携、医療連携
  - ・薬業連携、地域連携
  - ・有害事象に関するユニット
  - ・臨床研究・臨床試験・治験
  - ・臨床研究倫理、外来化学療法
- 【記述 12】
2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
- (6)ワークショップにおけるカリキュラムプランニングについて、ご要望、ご意見がありましたら、ご記入下さい。
- ・ 2 日間で 17:00 くらいまでのプランニングにしてもらいたい。
  - ・ 2 日間では短すぎる。ワークショップ自身は充実している内容であるが、もう少しゆとりが欲しい。
  - ・ 3 グループでユニットが 3 項目、もっと選べるユニットが多てもいいのでは？
  - ・ SGD の開催など、WS 自体は有意義だったが、直接活かすことができなかった。
  - ・ SGD の時間が足りないことが多かった。
  - ・ SGD を行う時間をもう少しとって欲しい。
  - ・ インターネットを用いた自己学習を取り入れ、ワークショップの時間を短縮してほしい
  - ・ カリキュラムプランニングとしては、1 演題しか経験しない為特に追加するコース・ユニットは必要ないと思われます。プランニング方法を学習できるだけでいいと思います。
  - ・ カリキュラム作成方法を学べたのは、良かったです。ただ、ワークショップの時間のほとんどがプランニングに当てられているので、もう少し、時間を削ってもいいのではないかと、もっと他の講義時間に当てて欲しい。
  - ・ グループワークで取り組んだのがよかった
  - ・ グループ内に薬局薬剤師が多かったため、担当がセルフメディケーションになった。できれば病院で使える内容である方がよかった。
  - ・ グループ内に様々な職種(大学教員、病院薬剤師、薬局薬剤師)を入れることでよい刺激になる。

- ・ コアカリキュラムに例示を追加して、よりよいものを
- ・ これを体験する事にどれほどの意味があるのか疑問です。
- ・ すぐ議論が白熱しましたが、実際の現場で行える代物にはなりません。学生にとって良いカリキュラム(理想的なカリキュラム)にはなりませんが、実行がかなり困難なものになりました。これは、部員の理解が及ばないことに起因します。例えその場で現実的であったとしても人的協力は期待どおりに得られないことを痛感しました。
- ・ セルフメディケーションという概念自体が曖昧で、テーマとして議論しづらい。
- ・ チーム医療のディスカッションに調剤薬局出身者が多く、モチベーションが異なったため苦労した。
- ・ なるべく自分が所属する分野での、カリキュラムプランニングを行えるようにする。
- ・ もう少し、時間をとってやらせて欲しかったが、時間があればできることなのかも自分ではよくわからない。
- ・ もう少し全体像が分かるようにしてほしい
- ・ もっと具体的にどう指導するか、授業するかを例としてあげて欲しかった。
- ・ “モデルコアカリキュラムが基本になるが、それを実施できるか否かは各施設の状況に大きく左右される。
- ・ モデルコアカリキュラムをベースに、自施設で受け入れ可能なものに編集するしかないので、カリキュラムプランニングを学習しても結局活用出来ない。”
- ・ ユニットの内容によっては職種によって理解度が異なる為、はじめに簡単な解説があれば良いのではないか
- ・ ユニットの内容によっては立場によって理解度が異なる場合があり、事前に簡単な解説があれば良いのではないか。
- ・ ユニット担当は、病院薬剤師なので病院関係の担当に割り当てて欲しかった。
- ・ より実践的なものの方がよい
- ・ ワークショップその場では、どの項目も意味があまり理解できなかった。ファシリテータの熱意は感じられたが、型どおり、時間通りに進められている感じは否めなかった。
- ・ ワークショップでは、調剤薬局の薬剤師が大部分のため、連携をとるのには良いが、実際の現場には活用しにくい
- ・ ワークショップでプランニングを行う必要性が感じられない。
- ・ ワークショップの対象者として「薬剤師」となっていたが、薬剤師で無い方も参加されていて違った見方の意見も聞け参考になった。
- ・ ワークショップは病院、調剤薬局があつまって情報交換・交流ができたという意味も含めて非常に有意義であった。今後もこのような場をつくっていただきたい
- ・ ワークショップを行なったメンバーの中で病院勤務の者が1名しかおらず話しの中心が調剤薬局中心となり余り参考にならなかった。
- ・ 医学部や海外では outcome based education の考え方をカリキュラムプランニングに取り入れているとの話を聞いた。本邦の薬学教育でも当然今後取り入れられるべき物と考えるので、そのあたりのことを学べればと思う。
- ・ 一般目標と行動目標の設定を指導者として、うまく設定できる手法を学べること
- ・ 各施設で作成したカリキュラムプランを持ち寄ってある程度標準的なものを作ってみるとか
- ・ 学生が、コアカリだけに集中して、実習が出来ないことがある
- ・ 現在の病院薬剤師はバイタルチェックに関する教育を受けていませんが、バイタルチェックの講義や実習をして貰いたい。
- ・ 現在はモデルコアカリキュラムはすでに出来上がっているため、今の指導薬剤師には、指導の仕方と評価の仕方が重要なのではないかと思う。
- ・ 現場での必要性和かけ離れた内容が多い
- ・ 現場の薬剤師がカリキュラム作成できるようになっても意味がないと感じた。もっと実地の実習指導をスキルアップさせるような内容が必要だった。
- ・ 現状で特に問題ないと思います
- ・ 限られた時間で作り上げることはとても重要だが、もう少しじっくり取り組む時間が欲しかった。
- ・ 作業自体は理解できたのですが、私自身病院薬剤師なので病院実務実習のユニットだと更に理解が深まったと思う。
- ・ 作成することで、コアカリを理解しやすくなるが、実際には教える技術が必要。
- ・ 参加者ではなく、講習を行う人たちを育成していく。行う回によって割と教える側のレベルに差があると聞いている
- ・ 施設間の情報を共有するアイテムの開発
- ・ 私にとってこの機会を頂いたことは大変有意義に感じております。
- ・ 私以外はすべて調剤薬局薬剤師のグループで、担当ユニットは調剤薬局薬剤師にとっては馴染みが薄いチーム医療でした。理解や共感を得るのに苦労しました。
- ・ 私自身 WS の経験は、初めてだったので物事のとらえ方や結論の導き方など大変役立ちました。
- ・ 私自身 WS の経験は、初めてだったので物事のとらえ方や結論の導き方など大変役立ちました。
- ・ 時に実際の現場のリアリティが感じられないのであまり学際的にならないことを希望する。
- ・ 時間が長かった。40 過ぎてくると辛い。
- ・ 自己啓発としては興味深いのだが、現場指導への導入においてはやや非現実的な内容だったかもしれない。
- ・ 自分は病院薬剤師であるのでそれに関連するチーム医療のユニットを担当したかった。
- ・ 実際にはある程度出来上がったものが存在するので、手法を体験する
- ・ 実際には細かくプランする余裕はないので、コアカリを時間数の調整だけして並べた形になっている。しかし、カリキュラムの作成方法を知っていることは必要だと思う。
- ・ 実際の実習において、ワークショップの必要性が見いだせない
- ・ 実際の実習生受け入れの状況とワークショップでの内容とギャップがおおきすぎる。
- ・ 実際参加してみると達成感はあるのだが自己満足に終わってしまった感がある
- ・ 実情に即していない。
- ・ 受講者がしっかり理解するには時間が足りない。何をすることが最初に理解されていないのでは？
- ・ 職場に合ったユニットが選択できれば良いと思う
- ・ 振り分ける際に希望をきいてもらえるといいのですが
- ・ 全く業務内容の違う病院と薬局を一緒に行うことがどうなのか？現場に即して考えると細かすぎると思います。
- ・ 全く知識のない領域の話であったので、非常に有意義であり、実習においては不可欠な知識であると思う。
- ・ 他医療機関のカリキュラムプランニングも拝見させていただき参考にしたい
- ・ 大学、薬局、病院の薬剤師間で実習への取り組み方、考え方に偏りがある。



- ・大変充実しており、他の職種の方とも意見交換ができ勉強になりました
- ・大変有意義であった。病院・開局薬局の先生方、大学の先生方と三者で学生教育に関して議論できたことが良かった。
- ・担当するユニットは病院は病院、薬局は薬局でといった施設別も必要かと思えます。
- ・調剤薬局の薬剤師と病院実習のチーム医療についてのプランを立てても、無理がある。
- ・難しく大変だったので、もう少し分かりやすい方がよかったです。
- ・認定後も再学習できる場を多く作って欲しいと思います
- ・認定実務実習薬剤師を再評価するシステム。
- ・非常に有意義な作業ができたことは指導スタッフの力量によるところが大きく、感謝しています。
- ・評価で悩まれている先生が多いと思いますので具体的に評価方法の講義を取り入れてはどうか？
- ・病院、薬局どちらのユニットも担当できれば違う立場でのディスカッションができてよいと思う
- ・病院、薬局のどちらにも共通するような内容が多いと良いと思います。
- ・病院・調剤薬局で別れたほうが良い領域もあると考えます。
- ・病院および調剤薬局薬剤師を分けて、それぞれ専門の領域のプランニングをする方が、問題点や方法など建設的な意見が出易いのではないかと思います。
- ・病院と薬局でのカリキュラムの内容が違うので、それぞれ関連するテーマでやるほうが良いと思う。
- ・病院と薬局はわけて SGD すべき
- ・病院勤務なので「セルフメディケーション」では(薬局勤務の方よりは)積極的に発言できなかった。
- ・病院就職の人が薬局実務実習のユニットを担当してもイメージがわかず話にあまり参加できなかった。
- ・病院薬剤師と薬局薬剤師では現場の内容が異なるので、共通に立案していくのは無理があった気がする。
- ・病院薬剤師ならば病院薬剤師業務に即したユニットを経験させた方がより有意義だし、今後の役に立つと思われた。
- ・病院薬剤師の実務に関するものがもう少しあればよかった
- ・方略について、もう少しつっこんで教えて頂ければありがたいと思いました。
- ・忙しすぎて十分な方略の理解が出来ずに詰め込まれ去っていった感じです
- ・薬局、病院が共有できる話題でディスカッションできたら良いと思う、
- ・薬局・大学分野の話題に触れられてよかった
- ・薬局におけるセルフメディケーション内容理解に時間を要した
- ・薬局や病院に特化された内容ではなく病院薬剤師、薬局薬剤師、大学教員すべての参加者が議論しやすいテーマが良いかと思えます。
- ・理論をもっとわかりやすく講義してほしかった(私は理解するのに時間がかかった)
- ・立場の違う薬剤師がグループとなりワークショップを行うことが、実際の実習に応用できるかは、やや疑問。

【記述 13】

## 2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(7)「医療人教育改革」の講演について

- ③ 講演の内容は、実務実習を行う上で役に立ちましたか。

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・「態度の教育は教えるのではなく引き出すことである」という先生の教えを実践しようと努力している。
- ・「学生に対してどう向き合えばいいのか」について
- ・「共に学び、共に育つ」という一文が心にしみました。
- ・「教育」から「共育」が印象的でした。
- ・「教育とは学習者の行動に価値ある変化をもたらすことである」というお話は教育に携わる上でとても役に立った。実際に講義担当した学生の感想文で医療者としての自覚や薬剤師として必要な努力について、これまでの自身の学習態度を反省し前向きな記載があった。上記のことが少しは達成できたのかなと自負しています。
- ・『共に学び、共に変わる。』という言葉を念頭に指導した。
- ・6年制薬学教育の目的
- ・その場は役に立ったと思うが、今となっては覚えていないのが実情です。
- ・チームの重要性に気付かされた。
- ・チーム医療の一員としての薬剤師の役割について指導できた
- ・フィードバックの仕方を考えるきっかけとなった
- ・ほめることの大切さ、やる気の出させ方
- ・モチベーションがあがった
- ・モチベーションが向上した
- ・リスクマネジメントが役立つ
- ・医学部などの具体的な事例を学べたことは有意義であった。ただ、あまりに現実との距離がありすぎる内容で有ったため、直接的に役に立ったかと言えば、現時点では否定的な回答とならざるを得ない。もちろん今後実務実習がカリキュラムも含めよりスムーズに流れるようになれば参考になる部分も多いと思われる。
- ・医療事故の要因分析→対応
- ・医療従事者の態度教育が大変重要であるということ。
- ・医療人として、教育についての考え方
- ・医療人としてのモラルをもって業務にあたる必要性を改めて感じた。
- ・医療人としての自覚が持つために必要なことを指導するよう心がけた。
- ・医療人としての心構えを再考することができた。
- ・医療人としての薬剤師の重要性を感じ取れた。
- ・医療人としての立ち位置を再確認し、それを伝えることができた
- ・医療人として後輩薬剤師の行動を冷静に見ることができるようになった
- ・医療人の教育に態度の教育が欠けており、それは言葉や毎日の業務で引き出す必要があることが分かった。
- ・何を教えたかではなく、学習者がどのように変わったのかを意識するようになりました(例えば、できなかったことが出来るようになった等)
- ・過去のため、聴講した内容を覚えておりません。
- ・学習効果の高い学習方法を意識した。患者の医療に対する意識を意識した。
- ・学習者がやる気を起こさせるような説明、実習を行わないといけないと思えるようになった。

- ・ 学習者である薬学部生がどのように学び、どのように変化したかが重要であるといった視点がもてるようになった
- ・ 学習者の視点からカリキュラム立案を考えることができた
- ・ 学習者中心であることを常に考えながら指導している。
- ・ 学生に講義する上で、意識をしながら話をする事が出来た
- ・ 学生に説明する際の参考にしていました。
- ・ 学生に対する接し方
- ・ 学生指導を専属で受け持つことは薬剤師の人数的に厳しく、結局兼務になってしまう。自分の業務と学生指導を天秤にかけながらでは、教育改革の重要性は理解しているつもりだが、現場で活用しようとは思わない。
- ・ 患者との向き合い方。
- ・ 患者の側に立った医療、患者に寄り添う医療が大事であることに気が付かされました。
- ・ 患者へ情報を伝える他に患者から勉強させてもらうことへの感謝とともに最後まで見届けてほしいと話されたこと。
- ・ 共に学び共に育つ
- ・ 教育とは共育
- ・ 教育は価値のある変化を起こすこと。他の人の人生に意味のある貢献をする。共に学び共に変わる。等自分の意識を高めることが出来た。
- ・ 教育者としての視点ができた。
- ・ 具体例はないが講演は大変有意義であった
- ・ 後継者を育てるのも医療人の心構えのひとつだと思えるようになったこと
- ・ 後輩の育成も医療人の務めであるという指摘。実習への意欲につながったと思う。
- ・ 効果的な教育の手法を知ることができた
- ・ 効果的な講義のやりかたについて、大変勉強になった。
- ・ 講演で学んだ人生の目標が判断に迷った時の道標となっている
- ・ 指導の重要性と医療人の人格形成
- ・ 指導者が教えたと思っていることを薬学生は教えてもらったと理解していないこと
- ・ 指導者と学習者の立場や対応がよくわかった。
- ・ 指導薬剤師としての意識・モチベーションが向上した。
- ・ 時間が経ちすぎていて覚えていません…。
- ・ 次世代とともに我々も成長することがよい薬剤師を育てることにつながる、と理解できた。
- ・ 次世代を育成することは医療人としての義務である、という気持ちを持たた
- ・ 自分が薬学部で過ごした状況とカリキュラム含め違うことを具体的に知ることができた
- ・ 自分自身が実務実習をうけていないので、医療人について改めて知る機会ができてよかった。
- ・ 実習をどのように進めれば良いかの参考になった。
- ・ 実習生に対する接し方について、役立ったと思う。
- ・ 実習担当していません
- ・ 実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・ 実務実習の重要性を認識でき、指導意識が高まった
- ・ 実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 助言するときは、Positive-Negative-Positive を心がけること。
- ・ 心構えが違って来たと思う。
- ・ 人の行動を変えるテクニック
- ・ 人の話を聞くときは目で受け入れるといったコミュニケーション

- ・ ヨンが重要であると述べられた事
- ・ 成り立ちが理解できた。
- ・ 相手の気持ちを重んじる大切さがわかった。
- ・ 大学病院で働き、医師や看護師は後輩の育成が業務として確立しているのに、薬剤師は後輩の育成にほとんど注力してこなかった。自分たちの地位向上のためにも、かつての徒弟制度のような技術は盗めといった態度を改め、積極的に後輩の育成に関与しなければならないと感じ、今後も学生の指導に関与して行きたい。
- ・ 単に講義を行うのではなく、実務が出来るように手助けする点
- ・ 知識・技能・態度に価値ある変化が生じること
- ・ 知識・技能・態度の中で態度を最も重点項目において教育している。
- ・ 知識だけでなく、知識の重積が大切であること
- ・ 長期実務実習の意義
- ・ 評価法、学生との接し方等
- ・ 毎日の単純作業のモチベーションを高めるためには夢のある目標が必要であるということが分かった点
- ・ 薬学部の学生の教育の必要性を再認識した
- ・ 薬剤科全員で共に学び、共に育つということを念頭に置き、指導に取り組んでいます。
- ・ 薬剤師が望まれている職業、期待されている職業だと知り、今後の薬剤師の育成にも教え伝えていきたいと思えます。
- ・ 薬剤師として常に向上心を持ち、共に学び成長しようとする姿勢で実務を行うことが大切であることあらためて認識した。
- ・ 薬剤部内で薬剤師向けの講義の資料にできた。
- ・ 良い人間関係の構築、個人のレベルに応じた対応の重要性

【記述 14】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(7)「医療人教育改革」の講演について

- ④ 講演の内容を実務実習を行う上で活用しましたか。活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ (前すぎて内容をほとんど覚えていません)
- ・ 「やって見せて、やらせてみて、ほめて育てる」という点を心掛けている。
- ・ 「考え方」として間接的に、あるいは特に意識せずに活用していたのかもしれない。
- ・ 「行為に焦点をあてる」という態度は実践できたと思う。
- ・ 3つの人生の目的を医療の目的、教育の目的に置いて行動していく。
- ・ PNP
- ・ Positive-negative-positive のサンドイッチ方式による指導
- ・ スモールグループディスカッション。
- ・ チーム医療のルール
- ・ チーム医療の意識付け
- ・ ともかくがんばったところをほめてあげる。
- ・ ほめることを多くした
- ・ まず、スタッフに周知勉強会を開催した。
- ・ やらせてみる、ほめて育てるを実践するように心がけています。
- ・ ヨーロッパの民話を学習時に学生に紹介している
- ・ 医療安全の講義に引用

- ・ 医療機関におけるリスクマネジメントの重要性を個別指導した
  - ・ 医療人として、倫理規範・守秘義務についてディスカッションできた。
  - ・ 医療人に求められる要素を学生に伝えられた
  - ・ 医療倫理
  - ・ 学習効果の高い学習方法を意識した。患者の医療に対する意識を意識した。
  - ・ 学生との接し方
  - ・ 学生と共に学んでいくという意識づけができた。
  - ・ 学生にも上記の内容を伝えながら、医療人としてあるべき心構えを伝えることができた。
  - ・ 学生の意見、考えをよく聞き入れるようになった
  - ・ 学生の意識の持たせ方に工夫することができた。
  - ・ 学生の実習内容のフィードバックに活用した
  - ・ 学生の理解できていない点は、方略が間違っていないか、等、振り返ることができた。
  - ・ 学生の話をよく聞くようになったと思う。
  - ・ 学生への対応、コミュニケーション
  - ・ 学生を大切に扱う
  - ・ 患者中心ではなく病気を中心とした医療を説明
  - ・ 感動した！
  - ・ 関係する事例の参考にすることができる。
  - ・ 共に育つ=きょういく
  - ・ 共に学び、よい方向に変わることができるよう努める
  - ・ 教えることが重要ではなく、学生が「良い方へ変化する、出来るようになる」ことが重要だということを念頭に指導している。
  - ・ 教育(共育)の意味を知った。
  - ・ 教育、人生が何たるかという点と「何を思うかで人は変わる」を心に刻んで実習生と向き合えた点
  - ・ 考え方が大きく変わった
  - ・ 参加型の実習プランを作成するように心がけています
  - ・ 指導に当たる薬剤部スタッフが自らも学び育とうという姿勢を持つことができた。
  - ・ 指導の仕方(positive-negative-positive 法)
  - ・ 指導者としての態度や心構え
  - ・ 叱るのではなく、Positive-Negative-Positive を心がけるようにした。
  - ・ 実習の主体を学生に置いてすすめている。
  - ・ 実習生が価値ある変化を遂げることを自分のGIOとして実習に臨んでいる。
  - ・ 実習生と話すする時には顔と顔を合わせて話すように心がけています。
  - ・ 実習担当していません
  - ・ 実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
  - ・ 実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
  - ・ 常に患者さん側の立場になる意識を持つようにした。
  - ・ 常に共育ということを念頭に実習を行った。
  - ・ 相手を教育しようとするのではなく、共に学ぶ姿勢で取り組もうと心がけた
  - ・ 他の薬剤師へ同様の内容で講義を行い、指導内容の共有化を行えた
  - ・ 多くの医療職種を知り、なるべく多くの患者さんを知ることができるよう実習カリキュラムを組んだ。
  - ・ 知識、技能、態度を考慮しながら、学生さんに説明できた。
  - ・ 知識に偏らず技能や態度にも重点を置くようにした
  - ・ 中島先生のお話は、医療人としての態度の基本を述べられており、その後も色々なところで活用させて貰っています。
  - ・ 薬剤師である前に、医療人であるという考え方。
  - ・ 薬剤部員のモチベーション向上に努めた
  - ・ 倫理面において、人としての常識であり、患者の気持ちになることを説明する点において。
- 【記述 15】
2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
- (8)「認定実務実習指導薬剤師 10,000 人養成に向けての講演について
- ④ 講演の内容は、実務実習を行う上で役に立ちましたか。
- 役に立った点が具体的にあれば、お書きください。
- ・ 「やってみせ、やらせてみせ、ほめて育てる」という一文。
  - ・ 「やらせてみる」ことの重要性。ひとつの実習でも、複数の行動目標を達成できるという指摘。
  - ・ この講演は無かったように記憶しています
  - ・ ワークショップに参加し、今後、受け入れる学生達に何を学んで欲しいのかの概略が理解できた
  - ・ 医師と同様実習ではなく責任のある研修にすべきではないでしょうか？
  - ・ 医療を取り巻く環境の変化と、薬剤師の職能向上について再認識できた。
  - ・ 過去のため、聴講した内容をあまり覚えておりません。
  - ・ 該当する講演はなかったと思われる。
  - ・ 覚えていません・・・。
  - ・ 学生とともに成長できる
  - ・ 学生に対してどのような内容を、どのような態度で指導を行えばよいか参考になった
  - ・ 学生も受け身ではなく実習の参加者としていろいろなことを考えさせる参加型の実習ができるようになった
  - ・ 学生を育てる際ほぼ同レベルの知識・技術を持った指導薬剤師の養成が必要であることを認識した上で実習に臨むことができた。
  - ・ 期待される役割を自覚することができた。
  - ・ 教育とは、学習者の知識、技能、態度に価値ある変化をもたらすことと話された事
  - ・ 君子の六法
  - ・ 現場の薬剤師も薬学生教育に携わり将来の薬剤師育成に貢献する必要があるということ。
  - ・ 参加型の実習
  - ・ 参加型実習の意義、大学での対応
  - ・ 参加型実習の意義と重要性について
  - ・ 指導薬剤師の責任の重さ・4 年制出の薬剤師が教育者となる点において心構えが出来た。
  - ・ 指導薬剤師以外の薬剤師から、実務実習に関する法的な質問に答えられた。
  - ・ 自分のモチベーションがあがった
  - ・ 実習のパート担当者にも随時認定講習を受講する必要性を再確認した。
  - ・ 実習の進め方や判定など
  - ・ 実習担当していません
  - ・ 実習方を取り入れた必要性の理解
  - ・ 実務実習というものを現在の職場の他の薬剤師に説明す

る際利用した。

- ・実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・正直言ってこの講義の内容の記憶が残っていない
- ・多くの薬剤師が参加していることに刺激を受けた。
- ・大学との連携の必要性。
- ・大学教員と同様、教育者としての自覚をもって学生に接しなければならないことを理解できた。
- ・恥ずかしながら、カリキュラムの作成に関与することで、その重要性に気付きました。
- ・調剤薬局の方々の考え方に接する機会を得られた
- ・認定実務実習指導薬剤師の重要性が理解できた
- ・認定制度の意義が理解できた
- ・平成 15 年度のワークショップでは本講演はありませんでした。
- ・薬学教育が 6 年制となった意義を理解できた
- ・薬学教育の必要性を改めて強く認識した。
- ・薬剤師として既に働いている人たちの意識改革にも有効であると思う。

【記述 16】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(8)「認定実務実習指導薬剤師 10,000 人養成に向けての講演について

⑤ 講演の内容を実務実習を行う上で活用しましたか。活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・(認定を持たない者にどのように浸透させるかが課題)
- ・WSに参加できない薬剤師に対し、今後の 6 年制の実習指導のあり方などを伝えた。
- ・この内容の講演はなかったように思います。
- ・これからの業務を担う薬剤師の教育が常に必要であることを認識しながら業務を行えるようになった。
- ・すべてのスタッフが実務実習認定薬剤師取得を目指すことは、学生実習を充実させるためには必要と認識した。
- ・やらせてみる実習を心がけています。
- ・医療倫理について
- ・過去のため、聴講した内容をあまり覚えておりません。
- ・学生には、シンプルな課題だけでなく、複合的な知識・技能を要する課題に取り組んでもらうよう工夫した。
- ・学生を育てる際ほぼ同レベルの知識・技術を持った指導薬剤師の養成が必要であることを認識した上で実習に臨むことができた。
- ・学生を教育する上でのコミュニケーション術や心理について学びたい
- ・教えるのではなく共に育つ事が教育であるとの言葉を肝に銘じ、日々学んで行こうと思っています。
- ・参加型実習
- ・実習に SGD を採用し、行った。
- ・実習の判定は学生の立場に立ち判定
- ・実習生に指導薬剤師について説明を行った
- ・実習担当していません
- ・実務実習に関する法改正について説明した。
- ・実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。

- ・実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・申し訳ありませんが、講義を受けた記憶がありません。よって(8)は回答出来ませんでした。
- ・他の薬剤師へ同様の内容で講義を行い、指導内容の共有化を行えた
- ・多くの医療職種を知り、なるべく多くの患者さんを知ることができるよう実習カリキュラムを組んだ。
- ・大学の現状を知るために、大学教員や実務家教員からの情報入手に努めた。
- ・調剤薬局のことも含めた広い視野からの業務の見方・説明
- ・評価の方法(成果を認め、なおかつ不足を補っていく)を参考にした。
- ・方略の作成
- ・薬学教育が 6 年制となった意義について実務実習生にも考えさせる機会を設けた
- ・理解が深まったため、取り組むきっかけとなった。

【記述 17】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(9)今後実施して欲しい講演の内容があれば、お書きください。

- ・NST などのチーム、がん化学療法など、比較的新しい領域のこと
- ・いくつかの大学での講義内容(テーマを絞って)を聞かせてもらい、ディスカッションしたい。
- ・コーチングなど
- ・コミュニケーションの取り方など自分の意見を相手に伝える手段について
- ・すでに始まっているので現状の様子。
- ・とにかく、内容が概念的過ぎると感じた。受講者の多くにとって必要なのはスローガンを声高に叫ぶ講演者ではなく、実際に何らかの形で学生実習を受け入れたことのある先生方による現実に即した内容だったのではないかと疑問が残る。
- ・どんな分野の講演でも聴講したいが特に精神・心理的な分野。
- ・フィジカルアセスメント
- ・フィジカルアセスメント関連
- ・以前のワークショップでもそうでしたが、薬局と病院と大学の連携についての講演
- ・医療の安全における薬剤師の役割
- ・医療現場で求められる薬剤師業務
- ・過去 2 年間(6 年制実習)の事例による、今後の対応に対する参考になる説明会
- ・海外の薬学教育の現状
- ・学生が実習を通じて成長していく過程とそれをサポートしている薬剤師の具体的な事例などがあると指導に対するモチベーションが上がると思います。
- ・学生が大学で学習するような最新医療等の内容の講演
- ・学生と、薬剤師とのズレ。学生が価値ある変化を来す方法
- ・学生のモチベーションを上げるためのカウンセリ的な講演も取り入れて欲しい。
- ・学生を教育する上でのコミュニケーション術や心理について

て学びたい

- ・ 学生側より、要望や意見があれば聞いてみたい
- ・ 教育の基本的なこと
- ・ 教育学
- ・ 具体的な(実習生の)実習の内容、これとこれは必須とか。
- ・ 現在の薬学教育と比較して他職種との比較、また外国の薬学教育との比較、そして日本の薬学教育の進むべき方向性について
- ・ 現在の薬学部教育体制について
- ・ 行政の構想(恐らく毎年変わる): 行政の思考をより早くキャッチすること、そういう意味で行政を取り込むことは薬剤師に求められる職務の方向性に大きな影響があるため。医療人としてはぶれたくはないが、現実を見る必要はある。
- ・ 講演ではないが他病院の実務実習がどのように行われているか知りたい
- ・ 今後の実務実習の展開や課題点などについて
- ・ 参加型実務実習の反省とさらにより良い実務実習実施に向けた展望
- ・ 実際にいろんな施設で行われての体験談についての講演
- ・ 実際に実務実習が始まってからどうなのか? 学生からの評価もしてほしい。
- ・ 実際に実務実習を行ったうえでの問題点と対処法について
- ・ 実際の教育効果や欧米での知り組み、他職種での知り組み、等。
- ・ 実習における成功例、失敗例など具体的な内容について
- ・ 実習の評価において、具体的な内容を教えて頂きたい
- ・ 実習生に対して、具体的にやっていること(使用テキストなど含め)の紹介
- ・ 実習中のセクハラ・パワハラの実例、指導薬剤師が訴訟など起こされないための明確な対策法
- ・ 実務家教員の臨床レベル維持のために何をすべきか
- ・ 実務実習の現状
- ・ 実務実習の現状と今後
- ・ 実務実習生の感想や意見
- ・ 他の施設での実務実習の状況の報告会を行って欲しいです。
- ・ 大学での教育の現状や実務実習における学生の自己評価や満足度に関する調査結果等の講演をお聞きしたい。
- ・ 大学の授業の変わった(加わった)部分を具体的に
- ・ 中小病院向けのカリキュラム作成講座を開催してほしい(大病院と同じようにはできない 例受け入れ学生一人ではSGDはできない)
- ・ 日野原重明先生のご後援。
- ・ 評価の方法について
- ・ 病院実習と薬局実習の到達目標についてのすみ分けについて
- ・ 方略と、チーム医療
- ・ 薬学教育が6年になったことに伴う今後の薬剤師業務の変化、展望について
- ・ 薬学実務実習における目標とそれに対する到達度
- ・ 薬学部6年制への移行と現実問題について。特に医療機関からみた6年制薬学部卒業者の評価など。
- ・ 薬局・病院の実務実習の実態

【記述 18】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容につい

て

(10) 配布資料について

- ② 配布資料は実務実習を行う上で役に立ちましたか。役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 「講義法の改善」は講義内容を考える際に役立ち、活用した
- ・ 1ヶ月後に読み返しても、充分思い返せるポイントを得た資料でした。
- ・ Daleの円錐が視覚に訴える力があり大いに役立ちました。
- ・ GIO, SBOs, LSなどの内容が再確認できる
- ・ GIO, SBOsの意味の再確認の際に振り返ることができる。
- ・ KJ法
- ・ kj法
- ・ KJ法(文殊カード法)を活用できた
- ・ SBOsを理解するための方略の設定と評価の方法を考えるとき。
- ・ SDGの進め方などを参考にしている
- ・ SGDの時に活用した。
- ・ SGDの進め方などを参考にした
- ・ SGDを行う時
- ・ カリキュラムの作成や学習方法設定の参考にした。
- ・ カリキュラム作成の際に読み返した。
- ・ カリキュラム作成時の文言、分類に利用
- ・ がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・ スケジュールの例
- ・ スケジュール作成において、項目を漏れを防ぐことができた
- ・ デールの円錐がわかりやすく、最も取り入れやすい項目でした
- ・ どのようなSBOがあるのかが分かる。
- ・ ハンドアウトがあり、後での確認、復習に非常に有用であった。
- ・ ワークショップ後、実際に実務実習生受け入れまで期間があいていたため復習に役立った。
- ・ 課題の学習方法
- ・ 学習方略(SBOs)を考えるとき、役立った。
- ・ 学習方略や評価方法の設定など
- ・ 学習目標や方略の作成時の参考とした
- ・ 教わった内容について、復習できた。
- ・ 教育の時間割
- ・ 教育学を理解するのに役立った。
- ・ 教育用語の確認
- ・ 形成的評価と総括的評価
- ・ 言葉の定義など確認する場合に役立つ。
- ・ 後で何回も見直しが出来た。
- ・ 自己学習と理解を深める上で役立った。
- ・ 自施設でのカリキュラム作成時の資料として役立った
- ・ 自施設でのカリキュラム策定時など。
- ・ 実習の準備をおこなううえで活用した。
- ・ 実習の進め方で迷った時に何度も見返した
- ・ 実習の流れを整理する際に役立った。
- ・ 実習を行う上での制限項目
- ・ 実習指導の参考にしています
- ・ 実習受け入れまでの、テキストとして活用した。
- ・ 実習生の評価
- ・ 実習前に資料を見て振り返ることができた
- ・ 実習担当していません

- ・実習中、指導法を見直すのに用いた。
- ・実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・実務実習の実施方法についての資料を参考にした
- ・実務実習を行う際に使用したテキストの内容を理解する上で役立った。
- ・実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・詳細な資料で、自分の理解不足を後から補うことができた。
- ・測定しようとする行動と評価方法はカリキュラム作成時の評価方法を考える点でよく役に立った。また KJ 法は実際の実習で使用した。
- ・他の薬剤師への教育
- ・大学から送られてくる実務実習書の解読に
- ・特に測定しようとする行動と評価方法は今でも参考にする。
- ・評価を行う上で役に立った
- ・報告書を作成するときに利用しました
- ・方略とか、普段使わない言葉を知っていた(使いこなせているかは不十分な点あり)
- ・方略の作成と評価
- ・望ましい学習活動のもつべき特徴
- ・用語の理解に役立った。
- ・話している内容の方が重要

【記述 19】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(10) 配布資料について

③ 配布資料を実務実習を行う上で活用しましたか。活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ Dale の円錐で示された様に直接的目的体験が重要なので、病棟で患者さんと話をする時間を多く取り入れている。
- ・ Dale の円錐の図
- ・ KJ法 ワークショップ グループ・ダイナミックス
- ・ KJ法(文殊カード法)
- ・ KJ法でのグループディスカッションの見直しに活用した。
- ・ KJ 法について
- ・ KJ 法について調べるとき活用した
- ・ KJ 法の説明、展開法により最優先課題を見つけることに役立てた。
- ・ LSの作成。
- ・ SBO を作成するとき
- ・ SDG の進め方などを参考にしている
- ・ SGD における KJ 法の説明に使いました。
- ・ SGD について
- ・ SGD の進め方などを参考にした
- ・ インシデント、アクシデントの実際に起こった例
- ・ カリキュラムなどの作成時に使うことができた。
- ・ カリキュラム作成に活用した
- ・ カリキュラム作成の際に読み返した。
- ・ がん性疼痛治療に関する症例検討を企画するうえで参考になった。
- ・ スケジュールの設定
- ・ スマールグループディスカッション
- ・ 院内マニュアルを作成する時に目標の立て方、評価方法

- を決める時に参考にした
- ・ 何度も見返した
- ・ 各 SBOs に対する LS
- ・ 学習目標のもつべき性格、学習方略を参考に実習スケジュールを組み立てた
- ・ 学生間での討論で KJ 法を使用
- ・ 再確認に
- ・ 施設内の他の薬剤師に実習スケジュールについて説明する際活用した
- ・ 時間とともに忘れる場合もあつたり、当院のように受け入れの学生が少ないと、カリキュラムの構成等忘れてしまうので見直す資料は大変必要。
- ・ 自施設でのカリキュラム作成時の資料として活用した
- ・ 自施設でのカリキュラム策定時など。
- ・ 実習参加者同士が共通の基盤・言語を持てたことが大きい。
- ・ 実習担当していません
- ・ 実務実習の指導者となっていないため、学生を指導することがない為。
- ・ 実務実習を担当後にワークショップを受講したため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 上記に関連していますが、実際に学習前と学習後の違いを手技などで直接感じてもらうことが最も大きいです。
- ・ 情意領域では、レポートと観察記録を多用している。
- ・ 職場の薬剤師にSGDなど説明する時に参考にした。
- ・ 測定しようとする行動と評価方法、形成的評価と総括的評価の資料、SGD の資料、講義法の改善の資料などは部内で薬剤師に提示し実習中の指導、中間評価に役立ててもらえるように講義を行った。各講義担当者や中間評価者の取り組み方が変わったと感じている。
- ・ 他のスタッフへの説明資料に利用した。
- ・ 他の薬剤師への教育
- ・ 大学側から配布された実習書をつかったため。
- ・ 知識、技能、態度に対する方略の方法
- ・ 当院での実務実習SBOsの作成に
- ・ 当院用に実習内容を準備する際に、配布資料を見て確認した。
- ・ 到達目標等作成する際に参考にした
- ・ 独自のカリキュラムをを作成する際に見直すことができた
- ・ 二次元展開法
- ・ 評価する際の方法などについて資料を見直した。
- ・ 評価時に読み直し、利用(活用)しました。
- ・ 評価方法
- ・ 評価方法や学習方法の参考に使用した
- ・ 評価法と Taxonomy
- ・ 評価法などは大いに参考になった
- ・ 部内で実務実習の説明会をするときに参考にした。
- ・ 方略とか、普段使わない言葉の確認
- ・ 方略の作成の参考にした。
- ・ 問題点への対応は、症例の考察やSOAP 作成時に使用できるツールとなった。
- ・ 理解を深めるために、なるべく配布資料を作成することとした。

【記述 20】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(10) 配布資料について

④ 現行の配布資料以外に配布した方がよい資料があれば、具体的にご記入ください。

- ・実際の施設で行われている、対象とする形成的評価をどの時点でどんな方法で実施しているかの実事例「各 SBOs に対する評価方法の案：義務教育の単元テストみたいなもの」(施設による達成度のばらつきをなくしたい。学生のテストの点数が悪い時は、指導者が悪いと認識できるようなテスト。国試がこなれてくるといらないのでしょうか・・・)
- ・LS が施設により差があり、参考にならないため、現実的 LS がほしい。
- ・SBO ごとに学生に習得させるべき指導内容が具体的に書かれた指導薬剤師用の教科書
- ・インターネット上でデジタルデータで配布できる形にして欲しい。紙媒体では活用できない。
- ・コアカリキュラムに対しての資料
- ・一部講義には資料が無い。全ての講義に資料をつけて欲しい。
- ・可能ならば、もう少し実際的なものが良いと思われまます。
- ・各 SBOs のチェックシートのようなものがあればいいと思う。
- ・各施設での相違があまりないような実習テキストを作成したほうがよい。
- ・現場に即した法略例や具体的な実習への取り組み例など。(配布資料は一般の教育論的なもので現場に応用するには時間が足りない)
- ・講演(「医療人教育の改革」、「認定実務実習指導薬剤師 10,000 人養成に向けて」)のスライド資料も配布してほしい。
- ・講演内容は資料がないので、どういった内容だったか記憶があいまいです。すべてのものに資料があったらよかったです。
- ・座学の資料は必須であるため、座学未修者のワークショップ参加を不可とするべき
- ・市販されている実務実習用の書籍を配布した方が話が早い。結局、実習中は購入した書籍を利用した。
- ・疾病の理解を深めるような薬剤との関連性でまとめられた資料(学生に対し事前学習として渡せるもの)
- ・実演 DVD など具体例が視覚でわかるもの
- ・実際に実習している施設での学生レポート
- ・実習を終えた学生が就職希望している所(メーカー？病院？薬局？など)の意識調査等の資料があれば配布して欲しい
- ・実習受入施設に対して、教育目標別の演習問題のサンプル集のようなものを作成していただき配布して欲しい。
- ・実践で利用できるものが欲しい
- ・態度とかの評価の現場にマッチした具体例、例示数の増を
- ・大・中・小規模病院別のカリキュラムモデル
- ・大学側が作成した理想的な 11 週間のスケジュール例
- ・当該グループで作成した模造紙の内容(グループごと後日でよいので)
- ・配布資料の参考文献をあげてほしかった。
- ・評価の具体的方法の資料
- ・聞きなれない言葉もあったので用語集があったのでよかった
- ・用語集。

【記述 21】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(11)特に難しかった教育用語があれば、お書きください。

- ・ Formative Evaluation
- ・ GIO
- ・ GIO
- ・ GIO LS
- ・ GIO,SBOs,LS
- ・ GIO,SBOs など慣れない言葉で講義が進むのは、理解しづらい。
- ・ GIO、SBO、頭の中に入りにくい
- ・ GIO、SBOs
- ・ GIO、SBOs、LS
- ・ GIO、SBOs、LS 等あらゆる用語があり、短い講義の中で全てを整理して理解することは難しかった。
- ・ GIO、SBOs 等
- ・ KJ法。初めて聞きましたが勉強になりました。
- ・ LS、SBOs
- ・ LS と方略の違い。
- ・ LS について・部内説明のときにいつも苦労する。
- ・ rumba
- ・ RUNBA
- ・ SBOs、GIO
- ・ Taxonomy
- ・ Taxonomy
- ・ コアカリキュラム
- ・ すべて初めて耳にするものばかりで戸惑いを感じた
- ・ ほとんどが初めて耳にするような言葉でした
- ・ 英字で表現する意味がないので英語の略語は必要なし日本語で対応してほしい
- ・ 学習方略
- ・ 学習方略
- ・ 学習方略
- ・ 学習目標の想起、解釈、問題解決
- ・ 学習目標の分類(知識、技能、態度・習慣)
- ・ 学習目標記述のための動詞
- ・ 学習目標記述の為の動詞と知識・技能・態度の関連
- ・ 基本的には全て。質問をしても結局は「こういうものである」という押しつけの回答しか得られず、理解は深間等無かった。医学部のシステムを参考にして企画されたワークショップであるとのことであったが、あれほどの量の教育用語を駆使した講義・演習を本来的には教育機関ではない市中病院や開局薬局の先生方に対して実施する意味がどこにあるのかが未だに理解出来ない。
- ・ 教育目標の分類 taxonomy
- ・ 教育用語など、想起問題解決など定義が分からなかった
- ・ 教育用語全般
- ・ 形成的評価
- ・ 形成的評価
- ・ 形成的評価
- ・ 形成的評価、総括的評価、GIO,SBOs,学習方略
- ・ 形成的評価、総括的評価
- ・ 形成的評価、総括的評価など
- ・ 形成的評価、総括的評価など
- ・ 形成的評価、総括的評価など
- ・ 行動目標と学習方略の対応について
- ・ 耳慣れない単語に戸惑った 必要以上に略号や英語にな

っている印象がありました 日本語のままの方がわかりやすいものもあるのでは

- ・ 全体的に用語を聞いただけでは想像しにくく、説明書きをみながらでないとう理解できませんでした。
- ・ 全般に言葉に慣れるまでは難しかった。
- ・ 総括的評価(「総合的に評価する」)ではなく、合否を決める評価であることが混同する)
- ・ 測定される知識のレベル(1. 想起→2. 解釈→3. 問題解決)
- ・ 当初は GIO,SBO,LS,RS など理解してそれを自分の病院での実務実習の目的やプランに活かすまでが大変だった。
- ・ 難しい用語はありませんが実習現場で日常使うことのない用語が多く、ワークショップ未参加者には使いにくいものばかりです。
- ・ 難しくはないが、GIO,SBOs などの略語はなじみにくい。そのまま日本語の方がわかりやすいと思います。
- ・ 難しくはないが、カタカナ・アルファベットを並べた用語が多い。素人にも判る言葉に置き換えた方がいいと思う。
- ・ 難解なものはないが、日常使用する言葉で表記してもらいたい
- ・ 日頃使っていないのですべて難しかったです
- ・ 評価
- ・ 評価がもつ属性
- ・ 評価と方略の結び付け方
- ・ 評価法と Taxonomy の関係
- ・ 普段馴染みがないので、全部難しかった
- ・ 方略
- ・ 方略
- ・ 方略
- ・ 方略
- ・ 方略
- ・ 方略
- ・ 方略
- ・ 方略
- ・ 方略 PNP 統括的」評価
- ・ 方略 ユニット
- ・ 方略 医療倫理
- ・ 方略, KJ 法
- ・ 方略, GIO、
- ・ 方略という言葉は初めて聞きました。
- ・ 方略や評価の仕分け方
- ・ 方略等々
- ・ 理解する、列挙できる、関連づける、説明の使い分け
- ・ 略語類(SBOs,LS,GIO・・・)。翻訳語のためか日本語でも意味不明。

【記述 22】

3. ワークショップに参加して

- ・ 参加型研修(ワークショップ)について  
役立った業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ SGD 自体は以前取り入れてなかった学習方法であったので有益だと思ったが、それ以外役に立ったものはないです。
- ・ グループ施設の研修
- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。

- ・ 院内の接遇研修
- ・ 実際の実習において、ワークショップの必要性が見いだせない
- ・ 新しい知識に触れられたこと。
- ・ 他の SGD の機会
- ・ 特に役立った業務・活動はありません
- ・ 目的を達成するためのプロセスについて学ぶことができた
- ・ 薬局薬剤師と病院薬剤師の交流の場となったと思うが、基本的に既存の大学は成績の悪い学生は薬剤師やれば良いと思っているから。これってどうしようもないのですが(需要等供給の問題)もうすぐ臨床や街中で必要とされる薬剤師の需要はなくなってしまうかも
- ・ 薬局薬剤師の先生方と一緒に学ぶことにより、より知識が深まった。

【記述 23】

3. ワークショップに参加して  
参加型研修(ワークショップ)について  
役立った業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ KJ法、SGDを取り入れた
- ・ SBOsなど具体的目標に焦点をあてた実習を心がけることができた
- ・ SGD について知ることができた点です
- ・ SGD の具体的やり方
- ・ SGD の手法
- ・ SGD を経験したこと
- ・ SGD を取り入れた研修が増えており、積極的に参加することができた
- ・ ある程度、指導目標が明確になった点
- ・ カリキュラムについて内容がつかめたこと
- ・ カリキュラムの組み立てなど基本的な内容を理解することができた。
- ・ グループディスカッションの重要性や傾聴。
- ・ グループでの議論を深めること、初対面の人との協議や会議に応用できた
- ・ グループで話し合うことにより、より短時間で問題を解決することの重要性について学んだ。
- ・ グループは、保険薬局の方が8割でしたので、病院薬剤師外の業務の事が聞けて勉強になりました。
- ・ グループワークを行う上で、役に立ちました。
- ・ コミュニケーション能力が向上しました。
- ・ これまで、あまり明確でなかった長期実務実習のあり方が整理できたので良かった
- ・ スタッフの評定に関して、WSで学んだ問題解決レベルに至る知識および技能、態度・習慣の評価(評定尺度)方法を参考にしている
- ・ スタッフ教育
- ・ タスクを経験させていただき院内研修会等でのプレゼンのスキルが向上した
- ・ チーム医療
- ・ ヒヤリハットから業務改善につなげる時
- ・ プロダクトを作成する過程の重要性
- ・ リーダーの役割が具体的に理解できた。
- ・ ワークショップに参加する前は、実習生に「分かった？」と聞くことはあっても、途中評価する事はなかった。途中評価する事で理解度が分かり、到達点に達するように指導で



- きるようになったと思います。
- ・ 違う施設の先生や大学教員の先生方と意見交換ができたこと
  - ・ 一般目標、行動目標の重要性
  - ・ 一方的な知識の伝達でなくグループディスカッションによる研修の利点が理解できた。
  - ・ 一方的に教える実習から実習生自身に考えさせる実習への取り組み。
  - ・ 院内で行われる同様の教育プログラムに問題なく入ることができた。
  - ・ 院内の研修に在る上で、ワークショップの技法を使用させていただきました
  - ・ 院内研修においても参加型ワークショップを取り入れ、効果があがった。
  - ・ 円滑なコミュニケーション
  - ・ 会議などで参加者それぞれの立場を把握しながら進行する(意見を聞くようになった)
  - ・ 皆の意見を聞くこと
  - ・ 学習のプロセスについて学ぶことができた
  - ・ 学習プランを考えていく教育の大切さを知ることが出来た。
  - ・ 学習目標や方略について参考になった。
  - ・ 学生がどのような教育を現在受けているかを知ることが出来た
  - ・ 学生がどのように実務実習に取り組んでいくのか体験できた。
  - ・ 学生ではなく、施設の後輩教育で役立った。
  - ・ 学生との接し方。目標到達の過程の方法に取り入れた。
  - ・ 学生の視点にたつことができた。
  - ・ 学生の立場で考えることができるようになった。
  - ・ 学生や新人への指導方法や接し方
  - ・ 学生や新人を指導・育成することの意義が理解できた
  - ・ 学生指導をつうじて、自身の新人薬剤師の指導もみなおさせた
  - ・ 学生指導時に個々の学生の習熟度を見極めることの大切さがわかった。
  - ・ 学生実習だけでなく、新人教育などにも役に立った。
  - ・ 机上の空論で現実的でない。病院と調剤薬局は分割したほうがいい。
  - ・ 気持ちの持ちよう
  - ・ 教え方のイロハを基本から理解できた
  - ・ 教育について学ぶ機会が今までになかったので勉強になりました
  - ・ 教育について体系的に学ぶ機会がなかったのでとても役に立った。ワークショップ内で SGD を行う中で自らが実習生の視点で考える事が出来たため、その点も良かった。また、改善に対する抵抗と方策、カリキュラム改革のための行動計画などは現在の職場の改善を行う点でもとても参考になった。
  - ・ 教育を行う上での共通の基盤が得られた。
  - ・ 業務には役に立たない
  - ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
  - ・ 業務上の問題点の抽出
  - ・ 具体的な教育方法
  - ・ 研修を企画する上で役に立った。
  - ・ 現在の薬学教育がどのように行なわれていて、実習業務改革をどのようにすべきか参考にした。
  - ・ 限られた時間内に一定の成果物を完成させるということを意識するようになりました。
  - ・ 個々に目標(GIO, SBOS)を決めて取り組んでおり、日々成長できている。
  - ・ 個人の少数意見も大切であることが認識できた
  - ・ 後進の指導にあたり、目標と手段を意識するようになった。
  - ・ 考え方
  - ・ 講義を聞くだけではなく全員が参加して研修を行うという研修形式を学ぶことができた。
  - ・ 今までは経験のみにたよった指導等をおこなっていた。学生実習のみでなく、薬剤科スタッフの育成、医師に対するアローチ、看護学生の育成等、多方面で教育指導を行う事に対して、私自身のモチベーションを保つことができるようになった。
  - ・ 最近、ワークショップ型式を用いる研修も多くなったので、ワークショップの手法などを学ぶことが出来たのは良かった。
  - ・ 最近の研修では、WS が多く、討論作業の進め方は参考になった。
  - ・ 参加型という意味の把握。KJ法の手法。
  - ・ 仕事の問題解決プロセスが改善したと思う。
  - ・ 指導の方法
  - ・ 指導者が一方的に話をするだけではなく、学生に参加させることが大事であると学んだ
  - ・ 施設内で新人薬剤師を対象にWSを開催した
  - ・ 施設内で発表した。
  - ・ 自分にとって困難なところが多く、欠点がよくみえたので、頑張っていこうと思った。実習でも、いろいろ考えてもらって、学生にとって、いろいろなことが困難とならないように学んでもらおうと思った。
  - ・ 自分発、共育
  - ・ 実習の目標が明確になった。
  - ・ 実務実習に対する考え方、施設における実習の進め方やスケジュール作成
  - ・ 実務実習の基本的な概念が理解できた。
  - ・ 初期の頃はワークショップという形式の理解を広める上で役に立った。
  - ・ 所属の違いによる問題意識あり方について再認識できたこと。
  - ・ 色々な職場の人たちの意見を聞き参考になりました。
  - ・ 新人教育
  - ・ 新人教育。服薬指導時の患者の理解度に応じた説明内容設定
  - ・ 新人教育の目標設定
  - ・ 新人教育や異動者に対する研修
  - ・ 進行の仕方、まとめ方がわかっていてスムーズに運べた
  - ・ 人を教育するにあたっての一般的な考え方について
  - ・ 積極性
  - ・ 積極性の大切さ
  - ・ 積極的に実習生が参加できるように、実習を行った。
  - ・ 他の施設の先生と意見交換ができたこと
  - ・ 他施設での現状を知ることができた。
  - ・ 他施設の薬剤師の現状、問題点を知ることが出来た
  - ・ 他地域での WS
  - ・ 他部署とのコミュニケーション能力が上がったように感じた
  - ・ 多くの施設が実習生受入れに前向きに取り組んでいくことがわかった点。
  - ・ 大学での教育方針やコアカリキュラムが理解できた
  - ・ 短時間でグループ内の様々な意見や考え方を抽出し、協

力してまとめ上げるという能力を養うために有用であり、まだ役立ててはいないが、今後の業務に生かすことができると思われた。

- ・ 知り合いが増えた。
- ・ 地域の他病院の薬剤師とのコミュニケーションがとりやすくなった。
- ・ 調剤薬局、薬剤師とコミュニケーションをもつ事ができて通常業務にも良い流れが生まれた
- ・ 調剤薬局の経験がないので、調剤薬局の方の考え方が、視点が違って視野が広がった。
- ・ 当時 4 年制学生実習の計画から実務実習の方法を積極的に取り入れることが出来た
- ・ 当時まだスタート前だったので、実務実習の取り組み方が何となくではあるが理解できた。
- ・ 到達目標を行動で捕らえる点
- ・ 評価の仕方
- ・ 病院の HQM 活動などに参照。
- ・ 部下の指導の参考になった。
- ・ 薬剤部内職員教育
- ・ 理念、概念

【記述 24】

3. ワークショップに参加して  
参加型研修(ワークショップ)について  
活用した業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ グループ施設の研修
- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 活用しませんでした
- ・ 上記と同様
- ・ 新人教育
- ・ 静岡県厚生連薬剤師研修会
- ・ 他の SGD の機会
- ・ 大学での後輩指導
- ・ 薬剤管理指導などに使えそう。

【記述 25】

3. ワークショップに参加して  
参加型研修(ワークショップ)について  
活用した業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ DALE の円錐を意識しての教育、KJ 法による問題点の抽出と二次元展開法による問題解決策。
- ・ GIO, SBOs の設定
- ・ GIO, SBOS をたて、業務に活かしている。
- ・ KJ 法
- ・ K-J 法
- ・ SGD
- ・ SGD の手法。
- ・ SGD を取り入れた研修が増えており、積極的に参加することができた
- ・ カリキュラムのプランニングと目標設定
- ・ なんとかして結果を作り出していく
- ・ プレテスト、学生とのディスカッション

- ・ ワークショップでの他の人たちの意見を参考にしてカリキュラムを作成しました。
- ・ ワークショップに参加していない薬剤師への指導
- ・ 医療安全について RCA 分析を SGD として行った
- ・ 院内研修研究委員会での活動
- ・ 会議など
- ・ 各々の立場における業務の遂行
- ・ 学習目標や方略について参考になった。
- ・ 学生とのディスカッションをするにあたり、役に立ちました。
- ・ 学生の日々の実務実習への取り組みかた。
- ・ 学生への評価をするために服薬指導内容などを統一化できたこと
- ・ 学生を受け入れる前に十分には、指導内容を吟味することができた
- ・ 学生実習だけでなく、新人教育などにも役に立った。
- ・ 患者参加型のワークショップ NST 研修の症例作成
- ・ 看護等他職種を含めた新人職員教育
- ・ 教え方に独自性が出て、学生の興味や理解度が格段に向上した
- ・ 教育目標を設定し教えていく方法
- ・ 業務には役に立たない
- ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・ 研修を企画する上で役に立った。
- ・ 県病院薬剤師会の行事(研修会の企画)
- ・ 後進の指導にあたり、目標と手段を意識するようになった。
- ・ 参加することによる、リーダーシップ
- ・ 指導の方法
- ・ 指導内容を実習者はすべて理解しているわけではないこと。
- ・ 指導漏れが無いかのチェックがし易い
- ・ 実習カリキュラム作成の参考にした。
- ・ 実習にあたり課題についてどこまでの内容を把握しているか確認している。
- ・ 実習に評価を取り入れることを学んだ
- ・ 実習業務改革の為に役に立つ。
- ・ 実務実習についての研修
- ・ 実務実習の基本的な概念が理解できた。
- ・ 実務実習の進め方に参考となった。
- ・ 周りの意見を聞きながら進めていくこと。導き方など。
- ・ 症例検討会での症例提示
- ・ 上記同様
- ・ 職員育成教育
- ・ 職員研修においてグループディスカッション形式の研修方法を取り入れた。
- ・ 職場内での問題点の把握と対応
- ・ 新人の研修のやり方
- ・ 新人教育。服薬指導時の患者の理解度に応じた説明内容設定。指導テンプレートの評価時
- ・ 新人教育や異動者に対する研修のあり方を再考できた。
- ・ 新人薬剤師に対する業務教育
- ・ 他の実習施設との実習内容比較が容易になった。
- ・ 他院や調剤薬局についての知識の拡充
- ・ 日々の日常生活で目標を持つことを意識した。
- ・ 評価の仕方
- ・ 病院の HQM 活動などに参照。
- ・ 目標をたてて学習していく方法
- ・ 問題点の抽出、問題解決

- ・ 問題点解決に向けてのプランニング作成に応用した
- ・ 薬局内研修会で参加者がそれぞれ意見を出しやすくなった。

【記述 26】

3. ワークショップに参加して

② スモールグループディスカッションについて  
 役立った業務・活動

その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ アプローチに偏りがあり、正しいこと望ましいことを追い過ぎると感じました。
- ・ あまり役立たなかった
- ・ グループ施設の研修
- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 院内研修会
- ・ 研修会
- ・ 自身の施設で対外的に主催している勉強会も SGD を取り入れているので参考になった
- ・ 実習生が 1 名だとスモールグループディスカッション方式は取れず、マンツーマンについてなっている
- ・ 実習生が一人であったためしていない。
- ・ 新人研修
- ・ 他の SGD の機会
- ・ 大学の授業
- ・ 短時間にその成果を視覚的に表現する技術
- ・ 調剤薬局や大学病院のスタッフの考え方や疑問、悩みがわかったのは有意義だった。
- ・ 保護者会で
- ・ 輸液の研修会でのグループワーク、院内感染対策の強化事業でのグループワーク
- ・ 様々な場面でのグループワーク時のメンバーシップのあり方。

【記述 27】

3. ワークショップに参加して

② スモールグループディスカッションについて  
 役立った業務・活動

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ KYT研修など
- ・ NSTスキルアップセミナー
- ・ SGD で意見を発しないことはほぼ参加していないことに等しいことが、司会などをやって良くわかった。
- ・ 普段の業務では、今まで以上に自分の意見をしっかり持ち、発言しようと思掛けられるようになった。”
- ・ SGD で活用できた
- ・ SGD に比較的、抵抗がなくなった。
- ・ SGD のやり方、進行方法を知ることができた。(指導薬剤師がチューターとなり、実習生に議論させた)
- ・ SGD の概念ややり方を学べたこと
- ・ SGD の具体的やり方
- ・ SGD の実施の際に参考に出来た。
- ・ SGD の重要性やその進め方が参考になった。
- ・ SGD は参加者が全員主体的に関わることができるので、大変有意義である。

- ・ SGD を取り入れた研修が増えており、積極的に参加することができた
- ・ SGD を進めていく上で、指導者として注意すべき点の再確認となった。
- ・ カリキュラム上の SGD において、学生の議論への方向性示唆に役立った。
- ・ グループディスカッションの方法を学べた。
- ・ グループ内のみんなの意見を聞き積極的に自分も意見を述べ、みんなの意見をまとめる
- ・ しっかり議論できた。
- ・ スモールグループディスカッションの方法
- ・ スモールグループディスカッションを実務実習で行う上で、方法を自分が行うことで良く理解できていたと思う。
- ・ スモールグループディスカッションを取り入れ、改善の一助になる。
- ・ スモールグループディスカッションでは短い時間でも色々な意見が出て参考になりました。
- ・ タスクフォースの役割
- ・ チーム医療のコアミーティングなどで役に立った
- ・ チューター(ファシリテーター)の役割
- ・ ディスカッションにより、個人で考えるよりも、より汎用性の高い発想が期待出来る事を実感した。
- ・ ディスカッションに慣れていない現状を把握できた
- ・ ディスカッションの方法や進め方について学ぶことができた。
- ・ ディスカッションをどのように導いていけばよいか。
- ・ ディスカッション時の進行の参考になった
- ・ ひとの意見、考え方を聞くことにより、自分の考えを客観的にとらえられることもある。
- ・ プロダクトを作成する過程の重要性
- ・ 意見を短時間で集約するのには有意義である
- ・ 異なる環境の先生方のご意見が伺えて、非常に参考になりました。
- ・ 一方的な知識の伝達でなくグループディスカッションによる研修の利点が理解できた。
- ・ 院内の研修にをする上で、ワークショップの技法を使用させていただきました
- ・ 栄養サポートチームなど。
- ・ 我々世代は大学で SGD について学んだことがなかったので SGD の進め方を勉強することができ、業務研修会でも役立てることができた
- ・ 会議など
- ・ 各種委員会での発言が出来るようになった。
- ・ 確かに、実習生との SGD を行う際に、ワークショップで様々な背景の方々と議論を行ったことはためになった部分もあることは否定できない。
- ・ 学生さんにスモールグループディスカッションを実施してもらった時に参考にした。
- ・ 学生とのディスカッションをするにあたり、役に立ちました。
- ・ 学生に意見を以前より多く発言させることができた
- ・ 学生に話したり、SGD をやったりすることに対する不安が少なくなった
- ・ 学生の SGD の運用方法
- ・ 学生の考えていることが理解できた
- ・ 学生の思考パターンの偏りが見極められる。
- ・ 学生の立場での見方や考え方を知ることができました。
- ・ 学生を2名同時に受け入れをした際に、学生同士で話し合い、結論をだしてもらったことがある。
- ・ 学生を到達すべき学習目標に短時間でみちびくことができ

- る。
- ・ 学生指導に活用している
- ・ 学生実習だけでなく、新人教育などにも役に立った。
- ・ 活発な意見のやりとりが出来るよう工夫できる。
- ・ 活発な意見交換
- ・ 活発な意見交換で、多方面からの観察方法がみられた
- ・ 緩和ケア研修会(医師対象、厚生労働省の事業)の開催。緩和ケアの研究会において、県内の勤務薬剤師(病院、薬局)を対象としたWS企画
- ・ 業務には役に立たない
- ・ 業務の運用変更等
- ・ 業務の問題点抽出、解決方法の検討において参考になった。
- ・ 業務改善を行う際にSGDを行い意見交換を活発に行うことができた
- ・ 決まった時間内で意見をまとめる手法[ただし学生が1名では使えない]
- ・ 研修会などでのSGD
- ・ 限られた時間に少人数で意見をまとめる方法が身についた
- ・ 司会進行の進める方法
- ・ 施設でのミーティングや県病薬委員会の集まりの際にSGDの手法を参考にしている
- ・ 施設規模、環境が異なれば意見にかなりの開きがあることが理解できた。
- ・ 施設内でSGDを定期的で開催した。学生実習のSGDを行う際のファシリテートに活かされた。
- ・ 施設内でも有効に活用できると感じた。
- ・ 時間内での役割分担と意見の集約について
- ・ 自分が臨床業務と薬剤師倫理に関するSGDを担当したが、SGDの進行とプロダクト作成に助言することが出来た
- ・ 自分が臨床業務と薬剤師倫理に関するSGDを担当したが、SGDの進行とプロダクト作成に助言することが出来た
- ・ 自分自身があまり体験したことがなかったので、学生にも実際にやってもらい役だった。
- ・ 実際にSGDを実務実習で行う際の参考にさせていただきました。
- ・ 実際に学生にテーマを設定し、SGDを行う際に参考になった
- ・ 実際に学生の生の意見が聞こえた
- ・ 実際に自分たちがスモールグループディスカッションを行っていたので、学生達にも行い、より考える実習が行えた。
- ・ 実際の実務実習でSGDを実施しているが、その方法を学べた点。
- ・ 実習、業務ともに他の意見を聞くことで問題点の解決につながった。
- ・ 実習にスモールグループディスカッションを導入した
- ・ 実習生と初回にやることで、どんな考え方をするのかがわかった
- ・ 実務実習の課題
- ・ 初めての経験で興味深かった
- ・ 少数意見の尊重を心がけるようになった。
- ・ 情報整理・司会進行
- ・ 職場内における教育活動など
- ・ 色々な意見が出るので、実習生に緊張感がはしる
- ・ 進行の仕方
- ・ 他施設での現状を知ることができた。
- ・ 他人の感性や意見に触れ、新しい気づきを得るための一

- つの手法として実務実習や業務に活用できると思われた。
- ・ 他病院の薬剤師との間で勉強会の際にSGDを行ったことで、互いの理解を深めることができた。
- ・ 調剤薬局の方々の考え方や仕事について接した点
- ・ 長期実習になり実習中にあいた時間を有意義に使用させるのに役立った。
- ・ 当院で開催する薬薬連携研修会で実際に行い、薬局とのつながりを持つことが出来た。
- ・ 討論することの重要性を学んだ
- ・ 発言することの重要性、ディスカッションの進め方
- ・ 発表後のコメントや拍手
- ・ 病薬主催の講習会などの運営でワークショップで学んだ内容が多いに役立った。
- ・ 服薬指導ロールプレイング→SGDへ、学生同士の力は計り知れないものがある。
- ・ 問題を明確に出来る
- ・ 問題解決をする際は1人ではなく複数で話した方が、正解に近づくこと、施設内の業務も、決めるべきこと、問題は他のスタッフと相談する重要性を学んだ。
- ・ 薬剤部内での会議において、参加者の意見をまとめることの難しさ改めて感じていたが、このディスカッションを通じて、大分うまくまとめることが出来るようになった。
- ・ 薬薬連携での話し合いに用いた

【記述 28】

3. ワークショップに参加して

- ② スモールグループディスカッションについて  
活用した業務・活動  
その他を選ばれた場合はその内容をお書き下さい。

- ・ がん化学療法・緩和ケア委員会の運営と委員会目標の立案についての検討会において
- ・ がん化学療法・緩和ケア委員会の運営と委員会目標の立案についての検討会において
- ・ グループ施設の研修
- ・ チューターの難しさに気づき改善策を考えるきっかけになった。
- ・ ワークショップを受講したばかりのため、実際にはまだ活用できていません。
- ・ 院内研修会
- ・ 院内研修等でもSGDの機会が増えており薬学生にもテーマを与えて実施している
- ・ 活用した業務・活動はありません
- ・ 近隣薬局との研修会で利用
- ・ 研修会
- ・ 研修会
- ・ 上記に記載したように、調剤薬局、大学での悩み等がわかったので、実習生に注意しやすくなった。
- ・ 大学の授業
- ・ 保護者会で
- ・ 薬局会等の会議進行
- ・ 薬剤管理指導などに使えそう。
- ・ 様々な研修で取り入れている。

【記述 29】

3. ワークショップに参加して

- ② スモールグループディスカッションについて